

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272400490		
法人名	社会福祉法人 奥津軽会		
事業所名	グループホーム八幡荘		
所在地	〒037-0309 青森県北津軽郡中泊町大字八幡字八幡32番地3		
自己評価作成日	令和2年9月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和2年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>年間の行事を通じて利用者様にその季節に合った行事を取り入れています。行事以外でも担当職員が個別ケアに取り組み利用者様と職員の信頼関係を築き利用者様が満足できるよう支援しています。又2カ月に1回八幡荘新聞を発行し、ご家族様との連携に力を入れています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は幹線道路に面しているが、敷地の奥の方に建物があることで、騒音が少なく利用者はのんびりと過ごせている。建物自体は老朽化し建て替えの計画であると聞いたが、窓が多く採光が十分で、廊下や居室は広くゆったりとし清潔な印象を受ける。今年実施されなかったが、法人全体の祭りは地域の体育館を借りて出し物や軽食などがあり、地域交流の場になっている。「職員の7つの条件」「職員の心得」を事務室の壁に理念と共に掲げ、職員はその内容を把握し理解することでよりよいケアに繋げている。理念の最後の文言「あ～安心」にぴったりの事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくりとふれあい、にこにこ笑顔でやさしくあ～安心」を介護理念として掲げ職員間で実践につなげています。	「どのようにすれば皆でコミュニケーションがとれるだろうか」と職員間で相談して決めた理念であるため職員は愛着を持っており、朝礼で復唱し周知・理解している。職員は利用者の笑顔を見ることで安心して仕事ができ、実践に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	奥津軽会祭りに地域住民にも参加を呼び掛け交流を図っている。	今年は開催できなかったが、法人の祭りは地域のイベントであり、地域の方も楽しみにしている。町内会に加入し、町内の催し物のお知らせがあり、回覧板も回ってくる。地域の方から、野菜や果物の差し入れがよくある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	天気の良い時は、外に散歩し地域の方と話し理解や支援を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回、地域の民生委員や行政のかたに参加していただき、運営推進会議を行い、参加者の意見などを今後の課題とし、サービス向上に繋げていくようにしています。	今年度は感染症のために、行政からの指示で会議の開催はなく、事業所から会議メンバーに運営状況の報告という形で実施している。運営推進会議での意見は職員会議で報告しサービスにつなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町で行われている地域ケア会議に参加し、他事業所職員や行政の方との交流を図り、協力関係を築いています。	介護保険に関する申請等で問い合わせや相談をしたり、会議の記録の仕方でも指示をもらうなどしている。地理的には役場まで3分であり、顔を合わせる機会も多くある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の心得に「拘束、抑制のないケア」をあげ、身体拘束についてのマニュアルを設置し、全職員が理解身体拘束ゼロに努めています。また玄関は日中施錠せず出入り自由にしてしています。	事業所内の研修を定期的実施し、職員は拘束について周知している。以前にベッドから転落の危険があった利用者に関しては、柵の利用について家族に説明し同意を得たことがあったが、現在は皆無である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修会にて「身体拘束について」の勉強会を開き全職員に周知。また身体拘束マニュアルをいつでも見られるようにして身体拘束に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修会を開き自立支援事業や成年後見制度について勉強会を開き、理解に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に利用契約書に沿って内容を説明し、利用者様または家族様に理解していただき、同署を得たうえで契約しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設の玄関に意見箱を設置していつでも意見があれば聞き入れる体制を取っています。また面会時家族様に近況報告や状態報告して今後の支援方法や家族様の要望など受け入れています。	入居時に契約書を以て、意見や要望等は事業所・行政・国保連が窓口になっていることを説明している。来所時や受診後の報告の電話で、要望を聞き取りし、随時対応できるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	決定事項や行事、入所様の受け入れなどについて、その都度話し合いの場を設け意見交換しています。	管理者は日頃から、職員が意見を出しやすい環境を意識し職員が話しやすいように声かけしている。月1回の職員会議の場で意見交換がされ、電化製品の補充など要望があれば、早めに対応するように心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が向上心を持って業務に取り組めるよう各自役割を持ち、就業できるような環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の年間計画を立て、スキルアップできるように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム事業所と3ヶ月に1回交流会と題して会合を開き、勉強会や情報交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の状態観察を行い、コミュニケーションを取りながら、不安や要望を聞き、ケアプランに取り入れ、毎日のサービス提供に取り組んでいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から必要な情報を得てアセスメントし、ケアプランに取り入れ、家族の協力を得ながら一緒に支援していけるよう、密に連絡し信頼関係に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況に合わせ、出来ることや出来ないことを把握し家族と相談しながらサービス提供に努めます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の得意分野で力を発揮していただけるように、食事の準備を職員と行い、達成感を共感できる関係づくりに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年1回奥津軽会夏祭りを開催し利用者様、家族様、職員の交流を深めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様、家族様の要望があれば、美容室や友人宅など職員が送迎して出掛けて支援しています。	現在は感染症のために面会制限があり、来所される方は少ない。外出はできないが、携帯電話を持参されている方は居室で自由に家族と会話したり、希望がある場合は事務室の電話で連絡をとっている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格、人間関係を把握し、利用者様同士の良い関係づくり、環境づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設サービス終了後も、必要に応じて他の介護施設の紹介や、在宅の支援方法など相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様担当が中心になり、ケース会議で利用者様の意向、希望を把握して要望などに即対応できる体制づくりに努めています。	毎月、ケース会議を行い意向や要望について検討している。会議に参加できなかった職員には回覧して記入してもらうなど、意向・要望を大事にしている。食べたいものなどがあれば、すぐに対応し喜ばれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様、家族様よりこれまでの生活歴、生活環境等の情報収集に努め、サービスの内容に取り入れて、経過についてケース会議にて話し合っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の日常生活を状態観察して、個別に日誌入力し個々の生活リズムの把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、家族様の要望を聞き、1ヶ月のケース会議で出された課題について、職員の意見を計画に反映させ、ケアプランを作成して評価しています。	家族の意向は「元気でいてほしい」、本人の意向は「歩きたい」など身体的な内容が多いが、編み物が好きな方は継続できるように支援内容をプランに記載したり、本人らしい生活が送れるようなプラン作りを目指している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌(各自のケース)にパソコン入力し管理者が1ヶ月に1度評価を行い、介護計画の見直しに反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院への通院、買い物等の外出は、利用者様または家族様の要望を取り入れ、いつでも対応できる体制をとり、柔軟なサービスを提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じ民生委員や行政などの意見交換し取り組んでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、家族様の希望する医療機関に受診し、かかりつけ医と事業所との情報交換、または検査の時は家族様に同伴を依頼するなど、家族様も含め、連絡を密にし支援しています。	かかりつけ医の受診を支援しており、受診は事業所車で職員が付き添い実施しており、結果は家族に連絡している。また、体調不良時には早急に受診し、家族に報告することで家族の信頼を得られている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人内の特別養護老人ホームの看護師と連携を図り、情報を共有して、利用者様の健康管理等の支援に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時はお互いに介護サマリーを提供し、情報を共有して退院後も生活がスムーズに行えるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期のあり方について、事業所でできる範囲を医療機関も含め家族様と話し合い、相談し対応しています。	看取りの指針があり、実際に家族の意向で看取ったこともある。看取りについては入居時に意向の確認をし、重度化の際などは今後について、事業所での看取りや法人内の特別養護老人ホームに住み替えなど、意向に沿って対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルとして作成して職員間に周知しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策については、1年に2回(昼夜想定)火災避難訓練を行い、消火訓練など行っている。	火災訓練は、事前に消防署に計画書を提出し指示を受けて実施している。災害に備え反射式ストーブ、懐中電灯、食材の備蓄の用意がある。災害マップの確認をし避難場所も把握している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の性格や特性を職員全員が把握し、失禁時や汚染時にはさり気なく声掛けしてトイレ誘導するなど、プライバシーを損なわない声掛けや対応を心掛けている。	守秘義務については職員採用時に説明し、また、定期的にプライバシーについて内部研修で周知している。利用者を「さん付け」で呼び、声かけに思いやりを感じる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自分の希望や要望が言いやすい雰囲気作りに努め、本人の力量に応じて自己決定できるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の生活は施設側で1日の流れとして決まっていますが利用者様個人の体調や精神状態に合わせ、個人のペースに合わせた柔軟な対応に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容や身だしなみは普段からおしゃれに気配りを心掛け化粧のできる利用者様は化粧をして普段過ごされている。普段も洋服におしゃれを取り入れ職員が気配りをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の前のテーブル吹きやお茶だしや後片づけの下膳は利用者様と一緒に、昼食は利用者様と職員と一緒に会話しながら食べています。	昼夕食は宅配食材事業社にメニュー・食材配達を依頼している。メニューが豊富であり、食事を楽しみにしている方が多い。地域の方にもらった野菜の処理や食事に関することを一緒に行うことで、より楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材を委託している業者様から1ヶ月のメニューにカロリー計算が記入されており食後は職員が摂取量を確か利用者様の摂取状況をパソコンに入力し摂取量を確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア口腔うがいを実施し夜間は義歯洗浄を行い、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し声掛けや誘導を行い力量に応じてトイレの排泄、自立支援に努めています。	排泄チェック表に記録し、排泄パターンの把握と日常の動きから排泄を察知し、トイレ誘導することで失禁がなくなった方もいる。排便に関しても乳製品を摂取し、主治医から処方された下剤の調整でコントロールしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつを提供でヤクルト製品(ヨーグルトやジョア)を提供している。水分が少なく摂取している利用者様にはお粥を提供してし便秘予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日(週3回)や入浴時間は施設側で決めています。先に入浴したい利用者様や最後にゆっくり入浴したい利用者様の要望に応え順番を変えています。	入浴の好きな方が多く、入浴を拒否することはない。利用者は入浴を楽しみにしており、職員は利用者がゆっくりとできるように配慮したケアを実践している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動時間に毎日のラジオ体操や余暇活動を取り入れて夜間安眠につながるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の説明書は各利用者様もケースに保管し服薬変更時には申し送りや診療記録に残し全職員が周知しています。又内服薬変更による症状の変化(活気・意欲低下など)には、医療機関のドクターに報告や相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者さま一人一人に合った支援を行っており気分転換に昼食お寿司を食べたり、買い物や外食など楽しみ気分転換を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望に添って随時散歩や買い物支援を行っています。	以前はスーパーと一緒に出掛け楽しい時間を過ごせていたが、最近では感染症対策で外出の制限があるため、天気の良い時は近所に散歩に出かけて気分転換している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様本人や家族様が希望される場合には、本人の所持金として本人に持たせ買い物の際には本人所持金から支払いをして頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の中には携帯電話をもっているのでもいつでも自由に電話しています。施設の電話の利用は、いつでも可能であり、手紙についても本人の希望であれば代筆をするなどの支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場では、みんなでくつろげるように照明の明るさ、テレビの音量に配慮しています。また季節ごとに壁面に模様替えを行い、居心地の良い空間づくりに努めています。	窓が多く採光があり、壁も淡い色なので全体が明るい印象である。ホールには座り心地のよいソファがあり、ゆったりと座ることができる。廊下にも椅子が置かれ、いわゆる「井戸端会議」ができる環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に長椅子を設置したり廊下に長椅子を設置し利用者様同士で自由に談話できるスペースを確保し、自由に使用して頂けるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の使い慣れた物、馴染みのある物を持参して頂けるように家族にも働きかけ、利用者様が安心して日常生活が送れるように配慮しています。	居室は広く、自宅から持参された家具が置かれ、それぞれに暮らしやすい空間となっている。家族の写真を飾り、繋がりを大切にしている方も多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関、トイレ、廊下に手すりを取り付け安全に立上がりや自立歩行ができる世に環境面でも配慮している。		